

北の縄文文化回廊  
に向けたクラブ活動



# 通 信

第 15 号



土器野焼き（大船体験広場にて）

## 目 次

1. はじめに	2
2. 平成24年度活動一覧	2
3. 各活動内容	3
4. 関連活動	5
5. 縄文への思い	6

# 1. はじめに

平成24年度の活動は、会員の皆様のご協力のもと無事終了することができました。

第16回総会では活動報告や収支決算も無事承認されました。終了後、1年ぶりにお会いする会員の方達と懇親会を昼食交えて行なわれ、改めて縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす意気込みが感じられた懇親会でした。今年度最初の活動は4月に大船遺跡内の清掃活動やシーニックバイウエイ北海道函館・大沼・噴火湾ルートに取り組みに関連した活動では、昨年10月にオープンした函館市縄文文化交流センター・道の駅周辺の清掃も函館市埋蔵文化財事業団のみなさんと一緒に行いました。また、北海道渡島総合振興局主催の事業に参加協力をさせていただき、「縄文文化体験ツアー」の縄文土器づくり・勾玉・アンギン編みづくり・土器野焼きなど多くの人達に喜んでいただきました。今後も関係機関と連携しながら、さらに縄文文化の普及活動をしていきたいと思っております。以下、平成24年度の活動内容を報告します。

## 2. 平成24年度 活動一覧

活動日	主な活動	参加人数	活動場所
4月14日	清掃活動	12名	大船遺跡
4月21日	第15回「北の縄文CLUB」総会	13名	南茅部公民館
6月2日	縄文染め	10名	南茅部公民館
9月29日	縄文土器づくり	15名	南茅部公民館
10月13日	土器野焼き	30名	大船体験広場
2月1日	キャンドルdeナイト	50名	函館市縄文文化交流センター

### (関連活動)

4月20日	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議総会出席	函館市
4月29日	函館市縄文文化交流センター・道の駅周辺清掃	函館市
6月1日	ひろめ舟祭り打ち合わせ	函館市
6月6日	青函圏交流連携推進会議総会出席	函館市
7月21日	土器野焼き用薪整理作業	大船体験広場
8月23日	商工会縄文祭り打ち合わせ	支所会議室
8月25日	縄文体験指導協力	千歳市
9月1日	体験メニュー(土偶の顔作り)練習	南茅部公民館
9月2日	北の縄文文化回廊づくり推進協議会総会出席	青森県
9月8日	縄文体験ツアー アンギン・勾玉・土面・土器づくり指導	南茅部公民館
9月29日	大船遺跡復元住居宿泊体験	大船遺跡
11月3日	南茅部地域文化祭 土器・土笛・勾玉他展示	南茅部公民館
11月3日	南茅部地域文化祭 勾玉作り指導協力	南茅部公民館
12月15日	縄文ステップアップ交流研修ツアー	青森県
1月2日	凧揚げ(世界遺産を願い)	大船遺跡
1月26日	キャンドルdeナイト用ろうそく作り・整備	縄文文化交流センター

### 3. 活動内容

#### (1) 清掃活動

4月14日(土)午前10時、良天に恵まれ、史跡大船遺跡内の清掃が行われました。この活動は毎年大船展示館がオープンする前に実施しているものです。昨年同様、用意しておいた、小さいショベルや鋤簾、てみを持って各自清掃を始めると、大小の馬糞があちらこちらにみられます。ここの遺跡内には毎年、雪解けとともに野生化した馬が子供を連れて来ているようです。拾い進んでいくと鹿の物もあり、色々な動物が来ては、落し物をしている事がわかりました。近くの木々ではエゾリスも見ることができました。遺跡の中は広いので、足・腰も痛くなりましたが皆さんは、冗談を言いながら楽しそうに鋤簾を動かしていました。次に国道278号線から登ってくる道路沿いには壁画があります。その壁画にはコケが生え汚れていたのですが、デッキブラシでゴシゴシ、あっという間にきれいになりました。今年も大勢の観光客の皆さんに気持ちよく散策していただけたと思います。

来年もまた、この活動は続けていきたいと思っています。参加したいと思われる方は是非連絡ください。

#### (2) 縄文染め

6月2日(土)、南茅部公民館の調理室において、縄文染めをしました。材料は春に芽吹いたヨモギをたくさん採取し、ゴミや枯れた部分を取り除いて、大きな鍋に入れて煮詰めていきます。ヨモギ独特の香りが、春らしい雰囲気を部屋中にただよわせていました。

雑談ですが、春に芽吹く山菜、緑色野菜、たんぽぽやヨモギなどの野草は、特に強い力があるので食べ過ぎると体の負担になってしまうこともあるそうです。染に関しては春夏秋冬、7月頃からはなんでも染められるといってもいいくらいですが植物の成長を確かめることが必要とか、春から芽吹くヨモギ、イタドリ、クワ、ススキなどは8月頃からはなんでも使うことができるそうです。試してみたいはいかがでしょうか。



畑の肥料に良さそうね



きれいになりました



ヨモギ



こ細かくする



染液に浸す



素敵な色です

### (3) 土器づくり

9月29日(土)、南茅部公民館にて、北海道渡島総合振興局主催の土器づくり・勾玉作り・アンギン編みづくりが行われました。私たちクラブは、アンギン・勾玉作りの指導を依頼されました。

アンギン編みは、クラブ独自の編み機を使い、土器づくりの粘土は北海道江別産の粘土を使用しました。参加者は粘土の感触を味わいながら、試行錯誤しながらも上手に作り上げました。



私の素敵でしょ



こんなもんでしょ



なかなかのできだぞ

### (4) 土器野焼き

10月13日(土)午前9時から大船体験広場にて、野焼きをしました。前日は天気が悪かったので、下焼きに重点を置き、時間をかけてレーンの中を乾燥させました。何度も土器を回転させて下焼きの作業を続けます。それが終わると少しずつレーンの中へ入れていきます。丁寧に時間をかけ、じっくりやることで土器も割れないのです。しかし、割れることもしばしばあります。ですから、合唱土偶のように私たちも土器がよく焼きあがるよう祈りながら焼いていきました。



レーンの乾燥中



下焼きの様子



合掌土偶です

### (5) キャンドルdeナイト2012 (シーニックバイウエイ北海道函館・大沼・噴火湾ルート)

2月1日(金) 1年ぶりのシーニックdeナイトが始まりました。今年も函館市埋蔵文化財事業団や他団体と協力して、函館市縄文文化交流センター・道の駅周辺を手作りワックスキャンドルで飾りました。昨年までは、南茅部公民館周辺で行っていましたが、交流センターがオープンしたら是非ここでやりたいと思っていましたので、皆の願いがかないとても嬉しく思っています。

昨年も雪像を作りましたが、今年は事業団と連携して雪像の数も増え、茅空(国宝土偶)や土器や足形土版の雪像も加わりました。キャンドルの明かりはとても美しく雪像を幻想的に映し出していました。見に来てくださった方達もたいへん喜んでいました。美しい光の小道もでき、沿道を車で通る人達の心にもキャンドルの温もりが伝わったのではないかと思います。来年度は更にキャンドルの数を増やし、範囲を広くしていきたいと思っています。



さすがですね



素敵な明かりです



皆の笑顔がいいですね

### (6) キャンドルdeナイト用ろうそく整備

1月27日(水)、函館市縄文文化交流センター体験学習室にて、キャンドルの整備をすることができました。これは2月1日(金)に行われるキャンドルdeナイトに飾る為のものです。今まで何年も同じ物を使っていた為、形が崩れたり、風が強い時に炎で溶けたりした為、毎年行っている作業なのです。何時もなら公民館でやるはずなのですが、縄文交流センターでろうそく作りを行っていたので一緒に作らせていただきました。今までは牛乳パックを使っていたのですが、今回は風船を使い作ってみました。これもまた丸みがあって優しい感じに仕上がりました。



カスが取れないな



うまくいったぞ



底を平らにして



素敵な丸だね

## 4. 関連活動

### (1) 土偶の顔づくり

9月1日(日)、南茅部公民館にて、事務局メンバーが土偶の顔作りに挑戦しました。初めての体験でしたが、試行錯誤しながらも、茅空らしく仕上げる事ができたと満足しています。



可愛らしい?



手つきがいいですね

### (2) 南茅部地域文化祭展示

平成24年11月3日に地域の文化祭が開催されました。この文化祭は毎年11月に行われるもので、毎回参加しております。クラブの作品の数々、土器・勾玉・縄文服などの作品を展示しました。そのほかに、勾玉作りなどの体験も、2階のフロアーにて行いました。子供達もたのしんで勾玉作りに参加していました。



楽しみだわ



穴あけるね



お兄ちゃん似合うね



国宝達勢ぞろい?



クラブ会員の作品



勾玉大きいです

## 5. 縄文への思い

### (1) 「縄文deナイト」体験記

実施日 9月29・30日、場所 大船遺跡

1年くらい前、何気ない会話の中で「竪穴住居に泊ってみたいね。」と言ったことから、関係者との交渉の結果、使用許可がおり、実施の運びとなりました。実施にあたりどのような問題があるかも検証してみようということにもなりました。遺跡内での施設（竪穴住居）の使用について、函館市教育委員会・函館市埋蔵文化財事業団からの許諾や、制約事項などを作成したり、大船遺跡展示館のトイレ・電気・水道などの使用についての打ち合わせをしたりしました。一番期待していた住居内での炉内で火を焚くことはできないとのこと。住居内の明かりをどうするか、電気を使用するとしたら住居までの電気の供給は、などいくつかの課題もみえてきました。

9月30日は十五夜、29日天気が良ければ満月の下で夕食をとり、余興を楽しんだり、雑談したりと思いを馳せていました。余興については、大塚さんの演奏（アルトサクソ）でプチコンサートを開くということになっていました。今回は、研修ということで北の縄文クラブ事務局のメンバーでの参加を募り、経費については参加者で負担、寝具等は自分で持参という事にしました。29日、午後から渡島振興局とクラブの合同主催による縄文土器作りを行い、17時半頃から研修の準備にとりかかりました。午後から小雨交じりの天候のため展示館内で食事をとりながらコンサートを聞くことになりました。参加者は演奏者を含めて9人でした。プチコンサートも終わりいよいよ住居内での研修。小雨の降る中、各自宿泊の準備。最初は灯りのない中、手荷物を運びこみ、乾電池式のライトを照明としました。床（土間）にはビニールシートを敷、その上に断熱シート、一応床の準備を終えました。そして寝袋や毛布を布団替わりに敷、寛談の準備をしました。照明には、数か所に乾電池式ライトを置き、香取線香を炉内に設置しました。住居内には雨漏りはなく、湿った感じはしましたが思いのほか暖かく感じました。各自座り、山ぶどうのワインやヒエから作られた酒を飲みながら、ふっと数年前に、現在は札幌大学の副学長である本田優子さん（アイヌ文化の研究者）の講演で、かつて二風谷での生活で真っ暗闇（自分が見えない闇）を経験した話をされた事を思いだしました。皆にこのような経験があるかどうかから話が始まり、自分には記憶がないことを話すと、櫻井さんが長野県善光寺本堂床下の胎内くぐりで経験できるよ、とのこと。また、子供の頃暗闇での体験談などで話が弾みました。

囲炉裏の火について、縄文人は常に火を絶やさずにいたのか。その都度、火を起こしていたのか。また、種火なるものを用意していたのか。防虫、そして暖房などを考えたら、火を絶やさないでいたのかなあ。また囲炉裏の近くに神棚とおぼしきものがある。竪穴住居の半数以上にあるとのこと。この時代、`神`という考えが生活してゆく中でどういう位置づけだったのか。

香炉型土器が出土しているということ`灯り`として使用していたのであれば、多数出土してもよいと思うが、出土が少ないところをみれば、司祭（シャーマン）用の道具か。

大船遺跡の住居の床下が深いわけ、住民は北方系ではないか。などなど雑談的な結論を出す訳でもなく、雨が止んだところで、一旦皆で外に出ることにしました。雲に隠れて月は見えませんでした。海が見えるほど明るく、夜の遺跡もいいなあと思いつつ、大宮さんから住居の説明を聞き、夜の散策と洒落込み、波の音を聞きながら住居に戻りました。会話に花が咲きつつも、夜も更け。明日のことを考えて眠ることにしました。話は雑談的ではありましたが、自分にとっては大変勉強になりました。翌朝6時近くには目覚め、すぐに後片付け、9時は縄文文化交流センターに集合すると

ということで解散の運びとなりました。帰宅出来る人は一旦帰りました。今後このような研修ができるかどうかわかりませんが、良い体験をさせていただきました。関係者の皆さん、そして参加者の皆さん、本当に有難うございました。

(中浜)

## (2) 縄文文化の基礎

北の縄文クラブに参加するようになり、縄文文化や遺跡を学ぶ機会が多くなりました。アンギン編み(縄文編み)を何度か経験し、コースターやポシェットを作成。この編み方が今に伝わり活用されていることに気がつきました。すだれを編む、ノマを編む(ムロチグサで小さなスタレで寒ノリを乾燥させ、判ノリを作るときに使う)そして小出しを編むなど多くに活用されていることです。(ムシロやタワラもそうでした。)

私も実際、アンギン編みでアブラガヤを素材にインテリア用のスタレを作ったり、ムロチグサでノマを作ったり、瀬背編で小出しを作成したりと、楽しんでいきます。(昨年の夏にはムロチグサを刈り取り、自然乾燥させる体験をしました。)いにしえから生活文化は先人の知恵として継承され、その時代、時代にあわせて容易に手に入る便利な素材で活用出来るものは活用し、技術は確実に守ることを大切にしながら今に至っているのだと。これからも縄文から多くを学び、日々楽しみたいと思っています。

(石岡生子)

## (4) 目指そう世界文化遺産

2013年1月2日、真っ白く雪に覆われた大船遺跡にて世界文化遺産登録に思いをこめ、連凧を揚げしました。この凧は事務局である副会長の平神氏が丹精込めて、作りあげたものです。皆の願いを載せて空高く、風に乗って飛んでいました。



高く舞いあがれ～

2013年7月31日 第15号発行  
発行 北の縄文CLUB  
連絡先 北海道函館市白尻町603-1  
特定非営利活動法人  
函館市埋蔵文化財事業団内  
TEL 0138-25-5510  
FAX 0138-25-5606